

## 仏様のおはなし新シリーズ第64集 その1 「黒白二鼠(くろびやくにそう)のお話」

いつもいつも福岡組ホームページにアクセスいただき有難うございます。光専寺の座敷の床の間に一幅の掛け軸があります。比喻経の黒白二鼠の絵です。

このお軸の内容は、一人の旅人が広い野を歩いていると、後ろから暴れゾウが追いかけてきました。周りを見まわしても、身を隠すところがありません。木の根が垂れている空井戸があるのを見つけました。その木の根を伝って空井戸の中に逃げ込みました。目の前に黒と白の二匹の鼠が出てきて、交互に木の根をかじっています。下を見れば古井戸の底で、一匹の大きな毒龍が口をこちらに向けており、四匹の毒へびが井戸の四辺にいて、男の落ちてくるのを待ち受けているではないですか。このままでは確実に根はちぎれて、男は龍や蛇に食べられてしまいます。木の根にはミツバチの巣がありその巣から甘い蜜が五滴、口のなかに落ちてきました。そのなんとも言えない蜜の甘さに心が奪われ、もつと甘い蜜をなめたいと思うのです。ここに出てくる広い野とは私たちの永い迷いを喩えています。ゾウとは無常、井戸は人生、木の根はいのちを喩えています。黒白の二匹の鼠は昼と夜を喩え、私はいのちが徐々に終わりに近づいていることを示しています。井戸の周りの四匹の蛇は地水火風の四大を、五滴の蜜は財欲、性欲、食欲、名誉欲、睡眠欲の五欲を喩えています。蜂はよこしまな思いを喩え、そして龍は死を喩えています。黒白の二匹の鼠がかじる木の根にしがみつぎ、蜜を求め続けているのは誰でもない私の姿のありようです。

私達は、人生の無常に思いをいたし、苦悩の解決を求めていかなければならないのです。阿弥陀さまの願いを聞かせていただき、私を救わずにおれない、摂め取って捨てることとはない、という生死を超えていくみ教えのご縁に遇わせていただきましょう。

